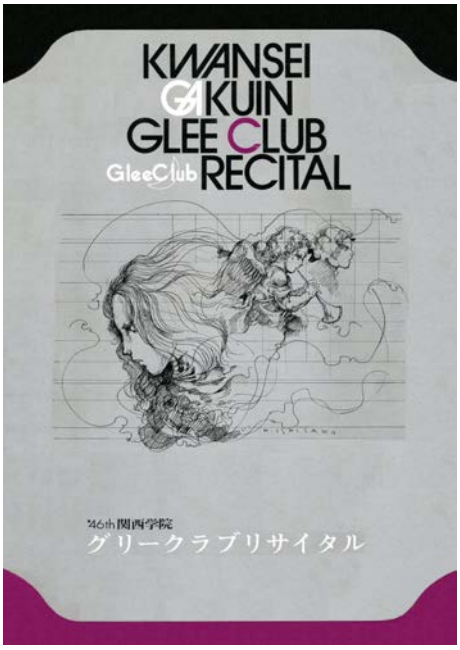
46th RECITAL 【1978 年（昭和 53 年）1 月 28/29 日】 神戸国際会館/フェスティバル



第46回リサイタルおめでとうございます。4 年近くの関西での生活を終えて，久しぶりに東京へ戻って来ると，関西の歴史の深さや風景の美しさや食物の味のきめこまかさが思い出されて，何となくなつかしく，少しさびしく感じながら年を越しました。

関西育ちの私がこんなことをいうのはおかしいのですが，そうした歴史や風景や食物のせいか，関西の人々の生活にはそうした特色があるような気がしたのは年のせいでしょうか。

そういえば関東のそれにくらべ，関西学院グリークラブの音楽にも，彫りの深さや美しさやきめのこまかさが昔からたっぷりあって，毎年存分に耳をたのしませてくれました。技術的にも音のはじまりの硬軟や，フレージングの「うねり」「ねばり」「たたみこみ」の変化の妙など，楽譜に書いていない表現にも意をつくして，音楽が単調にならないように努力を重ねてこられている跡がよくうかがえます。

林先生や北村先生や先輩現役の皆さんがたが，こうしたすばらしい伝統を持ちつづけられるよう努力を続けておられる姿には，ほんとうに頭のさがる思いがします。今後もどうか永久に，このすばらしい芸術を関西の地に残していって下さい。

演奏会のご成功とますますのご隆昌をお祈りいたします。

多田武彦
作曲家